

## 越山若水

2021.7.26

清流の女王とも呼ばれるアユ。

若アユのようにとの例えもある、

その身を躍らせる姿は美しい。し

かも独特の香気、苦みのある天然

ものは特においしい。アユを求め

釣り人でにぎわう県内各地の河川はまた、夏の風物詩である▼アユに当てる漢字の代表格が「鮎」。アユが縄張りを持ち、独占したがる習性のあることからつけられたといわれている。縄張りはせいぜい1平方メートルしかなく行動範囲も2〜3平方メートル。その中で石に付着する藻を食べる。お互いの縄張りは尊重して、領分は侵さない▼6月中旬から解禁の友釣りは、アユ特有の縄張り意識を逆手に取ったもの。縄張りにおとりアユを入れると、縄張りのアユは追い払おうと攻撃を仕掛ける。躍りになるうちに、おとりアユに付いている釣り針にひっかかる仕組みである(越前・若狭おさかな歳時記)▼先頃亡くなった評論家の立花隆さんは縄張りについて「他のあらゆる動物にまして、人間はうるさい」という。だが人間の本性に深く根ざしており大切にすべきで、人使いのうまい人はこの縄張り本性をうまく利用していると説く(「思考の技術」中公新書ラクレ)▼さて、衆院議員の任期満了まで3カ月を切り、与野党とも候補者の調整を急いでいる。自民党では有力者のくらし替えもあり選挙区内で公認争いが激しい。縄張り本性の裁きぶりが腕の見せどころだろうか。